



学校だより

めざす学校像<安心して過ごせる学校>『今日が楽しく、明日が待たれる学校』

鈴鹿市立加佐登小学校

電話 059-378-0063

FAX 共用 059-378-0006

校長 山中 喜宏

https://www.edu.city.suzuka.mie.jp/eskasado/

加小っ子だより

令和6年9月26日 No.19

先週は、昼間は真夏のような暑さが続きましたが、今週に入り、朝晩は空気がひんやりとし、暑さも落ち着いてきたように感じられるようになってきました。

いよいよ運動会の本番が迫ってきました。熱中症対策で外での練習がなかなかできませんでしたが、今週になり、やっと外での練習ができ、みんなの気持ちが運動会本番に向かっているようで、仕上げの練習に余念がありません。

収穫したお米を袋詰めしました

9月18日(水)、まちづくり協議会青少年育成部の方を講師としてお招きし、5年生が収穫したお米の袋詰めを体験しました。

はじめに、講師の先生から、お米は「いのちの一粒」として、自分たちの体を支える大事な食べ物なので一粒一粒を大事に扱ってほしいと教えていただき、次にお米の単位について学習しました。

「勺→合→升→斗→俵→石」の順に大きな単位になっていること。お米65gを炊くとお茶碗1杯分150gのごはんになることなど教えていただきました。

また、もみ付きのお米から、もみ殻を取って玄米にし、さらに精米して普段食べている白いお米にすること、精米するときに出るのをぬかということなど、収穫後もたくさんの手間をかけて、食べられるようになることを教えていただきました。

学習後、お米を計量カップに入れて袋詰めをする体験を行いました。

なかなかうまくいかずにお米をこぼしてしまう場面もありましたが、一粒一粒大事に扱うことを教えていただきましたので、こぼしたお米も拾って大事に袋詰めしていました。また、大きな袋から自分たちの小さい袋に詰め替えるときに、何も言わなくても自分から友だちの袋を持ってあげたり、大きな袋が倒れないように支えたりしてくれる子どもたちを見て、うれしい気持ちになりました。

今回の一連の米作り体験では、算数や理科で学習したことなど、様々な教科の要素を含んだ授業でした。体験の授業を参観して、子どもたちには授業で学習したことを知っている(覚えている)だけではなく、普段の生活の中で、創意工夫しながら活用していく力が必要なことを改めて感じました。このような体験をさせていただいた、まちづくり協議会青少年育成部の方々に改めて感謝申し上げます。

最後に、袋詰めしたお米はお家に持ち帰りましたので、ご家族で新米を味わってください。

